

安倍奥山塊

## 安倍川支流・黒沢

遡行日：08年3月29日

メンバー：三井（L/記）野澤

いつの頃からか3月の最週末日を自身の沢開きの日と決め、その年の沢の活動をスタートさせているが、今年もその日を迎える事が出来たのは幸いな事だし、感謝したい。

同行の野澤さんは、今回初めての安倍奥の沢という事なので是非安倍奥の沢を楽しんで貰いたいもの。となるとターゲットはやはり「黒沢」か。僕にしても7.8年ぶりで記憶も曖昧になってきているので楽しめるだろう。

安倍川に沿って車を走らせ、黒沢の林道の終点に車を止めると沢の仕度。

天気はますますだし、何度か来ている沢なので何の不安感もなく、ただ高揚感だけ。

踏み跡を辿って沢に降りる。

暫くは平凡な流れを辿る。水量はヒザ下程度で、所々にトコがあるがまだ濡れる気分ではなくヘツリながら進む。

ワサビ田を過ぎ、小一時間ほどで顕著な二俣となり、左に入る。

間もなくゴルジュ帯の入り口。

15mほどの直瀑が並列で落ちている。

右岸から巻きに入る。ゴルジュの中は10mから20mの滝が4本ほど連続して落ちていて、そのゴルジュに沿って高巻いて行くが、部分的に急なザレになっていて嫌らしい。ロープを使うほどではないが、慎重さが必要だ。

ゴルジュ帯の出口からショートロープの懸垂で沢床に戻るとその先に次の滝が行く手を遮る。ここは落ち口に向かって小さく巻いたハズだが何となくルートが見切れない。

シーズン初めはどうしても沢に馴染んでいないというのか、判断力とか決断力とか、どうも迷いがあって思い切りが悪い。

結局、更に一段上がって高巻き、ショートロープの懸垂で沢に戻るが自分でもすっきりし

ないルート取りだった。

6mほどの滝を2本越えて、ナメ滝を左から右に水流を横切って越えるとこの黒沢のハイライト、「七ツ釜」初めて黒沢に入渓してこれを見た時は本当に感動したものだ。

確かに奥秩父の「七ツ釜」に比べればスケールや造形的美しさの点で比べようもないが、何より人知れず存在している事が素晴らしいと思う。



【黒沢の七ツ釜 上から見るともっと絶景】

暫し腰を下ろしてこの密やかな美景を楽しむ。腹に少し詰め物をいれたところで腰を上げる。15mのナメ滝を快適に越えると8mばかりの滝が並列で瀑水を落としている。ここは二つの滝の間のリッジを登って巻く。

次の階段状の15m滝は左岸を巻いたが、ここは夏期ならシャワークライムが楽しい。右に洄れ沢を分けると15mの直瀑が行く手を塞ぐ。瀑水の右壁端が凹角になっていて、中間に水ゴケで黒くなったスリングが垂れている。ロープをつけ、落ち口は完全にバックアンドフットの体勢で乗っ越す。

この後も滝が次々と出てくるが、何れも難しいものではないが水流は流れていて、モタモタしているとホールドを掴んでいる手の感覚が無くなってヤバイ。

いくら静岡の低山の沢といってもまた3月なのだ。手に触れる水は十分過ぎる程冷たい。10mの階段状の滝を越すと明瞭な仕事道が横切っている。この先、沢は小滝を数本数えるだけであとは酷い藪漕ぎとなるだけだ。

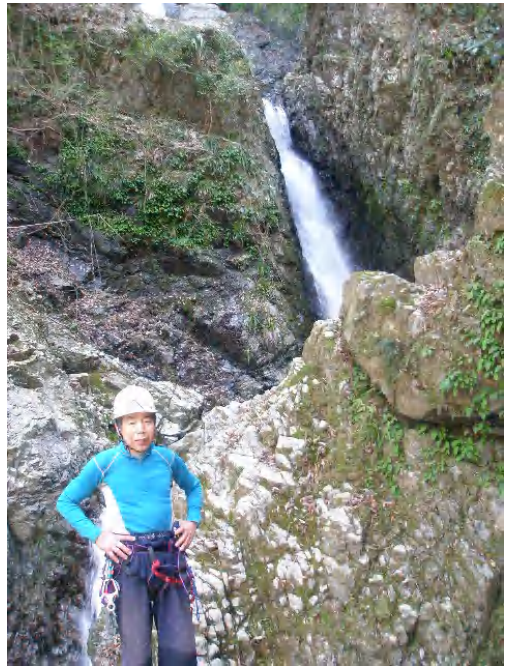
最初に来た時に稜線まで上がったが、そのあとは何れもここで遡行を終了して下山している。今回も同様ここから下山とする。

自分の身の回りの事、会の事、果ては政治や時事問題までダベリングを楽しみつつ下山、車に戻る。

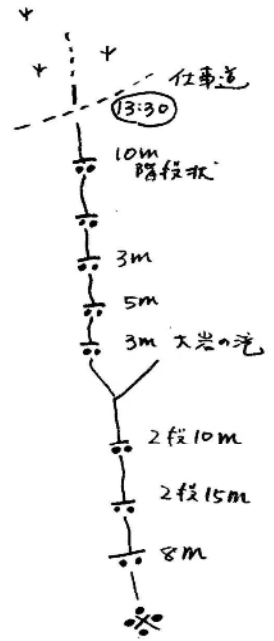
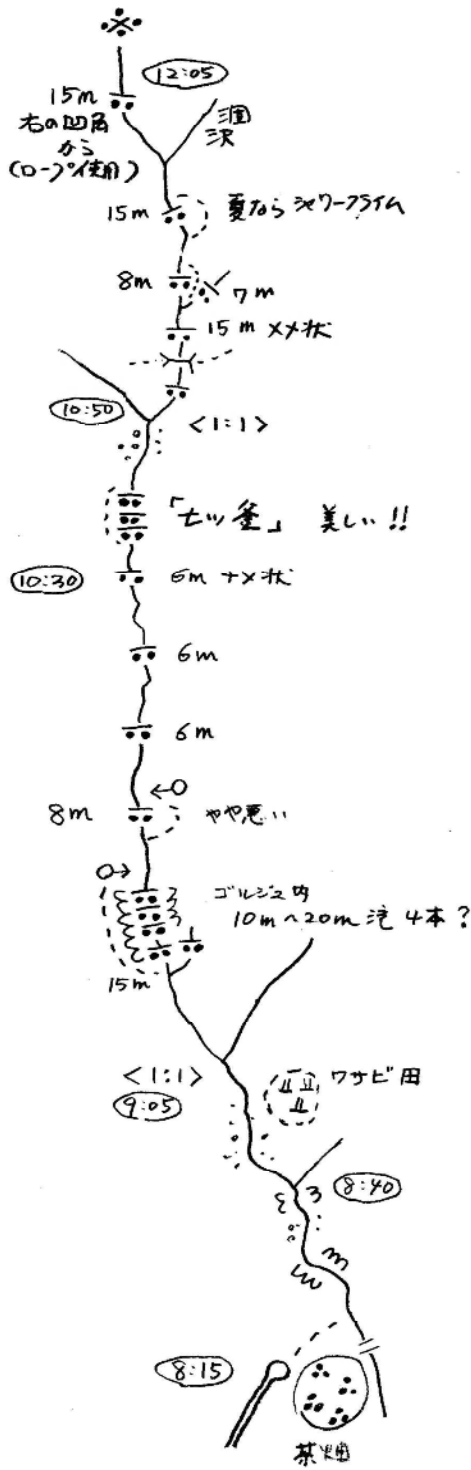
野澤さんには初めての安倍奥の沢を楽しんで貰えた様だし、自分としても久し振りの黒沢、オープニングの沢としては花丸だろう。

去年はヒザの手術で散々の一年だったが、今年は是非いい一年にしたいと思う。

さて、次は何処を計画しようか。



【CS滝】



08. 3. 29  
 宇倍川支流・黒沢